

# 人権啓発センター だより

平成26年10月  
No.10

(公財) 高知県人権啓発センター



## 再び県民意識調査より

平成24年度に県が実施した「人権に関する県民意識調査」の中で、近所の子どもが虐待されていると知った場合（疑いをもった場合）の関係機関への通報に関して、20歳代から60歳代までの年齢別の対応に特徴がみられました。

「市町村役場や福祉事務所などに通報する」や「子どもの通っている保育所、学校等に通報する」は、各年齢で割合にバラツキがありましたが、「児童相談所に通報する」では、年齢が上がるにつれて割合が下がり、「民生委員・児童委員に通報する」や「警察に通報する」は、逆に年齢が上がるとともに割合が上がってきているという傾向がみられました。

ちなみに、20歳代から50歳代まででは、「児童相談所に通報する」の割合が最も高く、60歳代、70歳以上では「市町村役場や福祉事務所などに通報する」が最も高くなっていました。

(企画啓発課 白石)



## 人権あれこれ

### 「はだ色」がない？

小学校3年生の孫との会話の中で、クレヨンやクレパスの色の中に「はだ色」がなくなっていることを最近知った。2000年あたりから変更するメーカーが増え、2005年から2006年頃までにはほぼ「はだ色」は使われなくなったようだ。「うす橙（だいたい）」というのだそうだ。その他、メーカーによっては「パールオレンジ」ともいうようだ。インターネットで調べてみると、メーカー側の「肌の色に対して固定観念を与えてしまうから」という説明が散見される。肌の色を

「はだ色」と特定することによる人種差別へのつながりを考慮してのことなのだろう。日本に居住する外国人も増え、日本で教育を受ける外国の子どもが自分の肌と違うと感じるのは、好ましくないということもあるかもしれない。諸外国でも同じような動きが見られる。

この件の是非をめぐる多様な意見や思いがあろうと思う。いずれにしても、言葉は時代を生きている。時代の吟味を受けること、そのこと自体は大切なことであろうと思う。

(研修講師 竹村)



# じんけんライブラリー

## 一押し本

### 「障害をもつ子を産むということ」～19人の体験～

編／野辺明子・加部一彦・横尾京子  
中央法規出版（1,800円＋税）

障害のある子どもが生まれた場合にこそ医師や看護師などのこまやかな配慮が欠かせない。医療に対する厳しい要望の一方で、我が子に対する親の熱い思いがあふれている。様々な葛藤を経ながらも子どもの現実を受け入れ、いつしか子どもへのいとおしさに親自身が癒されている姿は、子育ての原点を見るようである。

（事務局長 福田）



## ちょっといい話

こんな命と向き合う仕事を続けて思うことは、「人はそこにいてだけで価値がある」ということです。人が一人、人として生まれてくるために、どんなに多くの困難を乗り越えなければならないことか。

生まれてきて、この瞬間に、ここにいてことのすごさを知ってほしいと思います。生きていくのに理由はいりません。一人一人が奇跡のような命です。

思春期の子どもに必要なのは「今の自分でOK」という自己肯定感です。大事なときに自己判断がきちんとできるのは、「生まれてきてよかった」と思

える子どもたちです。そして「誰かに愛されている」と実感できる子どもたちなのです。

悩んだり、迷ったり、自分を否定しなくなったときは「ここにいて自分がすごいことなんだ」と考えてほしいと思います。

どの子にも、生まれてきたことのすごさを知ってほしい。人はそこにいてだけで価値があることを分かってほしい。

人権啓発研修ハートフルセミナー第2 講座講師  
内田美智子さん著書「ここ 食卓から始まる生教育」より  
西日本新聞社 刊



## 事業報告

### ピックアップ

### 平成 26 年度人権啓発研修ヒューマンパワー育成講座 【一般職(人権担当)研修】を開講しました

企業や団体の一般職（人権担当）の方を対象とした講座を、9月4日（木）に開講しました。

（公財）東京都人権啓発センターの人権問題講師 小嶋 洋昭さんによる「人を大切に行動力のある職場づくり」と題したワークショップを行いました。

男性も女性ものびのびと働ける職場環境を阻害する「職場のハラスメント」について、セクハラとパワハラを例にあげ、ハラスメント発生のメカニズムと、これを根本的に予防するための「コミュニケーション・スキル」を学び、人を大切にする感性と職場における実践について考える講座となりました。

（企画啓発課 谷脇）



### ピックアップ

### スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業を開催しました

いじめ等身近な人権課題に県民の皆さまが関心を持ち、理解と認識を深めるため、9月12日（金）高知ファイティングドッグスと連携・協力して冠協賛試合を開催しました。

本年度は、「子どもの人権サポーターゲーム」として、人KENまもる君と人KENあゆみちゃんと一緒に、グラウンド内で横断幕を掲げて人権啓発アナウンスを行いました。また、来場者には人権啓発うちわや人権啓発クリアホルダーを配布しました。

当日は高知球場最後のナイターということもあり、738人の方が来場され大人から子どもまでたくさんの方に啓発でき、とても意義のある催しになりました。また、多くの観戦者のみなさまから好評をいただくことができました。



（企画啓発課 林）





# Information お知らせ

## イベント紹介

### 平成26年度人権啓発映画放映事業

マスメディアを活用した人権啓発として、人権啓発映画をテレビ放映します。  
みなさんでぜひご覧ください。

- タイトル：「ボクとガク あの夏のものがたり」
- 内容：小学5年生の希望（のぞむ）と岳（がく）は、近所の美代おばあさんと親しくなり、かつての友達や地域、八幡大空襲のことを教わります。2人の子どもとおばあさんとの交流を描きながら、子どもの人権や、地域で育む人権文化に目を向け、また次代に語り継ぐものとして「戦争と平和」についても描いています。
- 放送日時：平成26年11月15日（土） 16：15～17：00
- 放送局：RKC高知放送

（企画啓発課 谷脇）

### 平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー【第5講座】

20人に1人といわれるLGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字）等の性的マイノリティ。当事者かつコンサルタントの視点から、豊富な事例やデータとともに語ります。

- 日時：平成26年11月22日（土） 14：00～16：00
- 会場：高知県教育センター分館 大講義室
- 講師：村木 真紀 さん
- 演題：「性的マイノリティもいきいきと働ける社会をつくろう」
- 参加費：無料（先着120名）
- 申込方法等：下記の問い合わせ先までご連絡ください

（企画啓発課 谷脇）



### じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で  
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書  
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
  - ビデオ・DVD  
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。  
（送料は利用者のご負担となります）



### ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員  
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備  
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他  
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>